

世界の舞台で 得意のパーカッションを演奏!



おおはた けん と
大畑 健登 さん

HBCジュニアオーケストラでは、3月24日～30日に音楽の都・ウィーンを訪問し、滞在中に2公演を行いました。同楽団に在籍し、今回の海外公演に参加した大畑健登さん（末広在住、高校2年生）にお話を伺いました。

ピアノを聞いて育った幼少時代

母が 自宅でピアノ講師をしていたので、ピアノレッスンの音色を聞いて育ちました。僕が物心がついた時には、ピアノをよく弾いていましたが、きちんとピアノ教室に通い始めたのは小2の夏で、ピアノは今でも続けています。中学の頃には、ドラムを叩く先輩の姿に憧れて当別中の吹奏楽部にも入部しました。パートは管楽器を周囲からは勧められましたが、迷わずパーカッション（打楽器）を選びました。小学校の学芸会などでよく打楽器を担当し、その頃から好きでした。

ジュニアオーケストラに入団

恩師 であるピアノの先生に入団を勧められたのがきっかけです。HBCジュニアオーケストラのことはそれまで知りませんでしたが、週1回の練習で高校との両立もでき、演奏する機会も多くて充実できると思いました。ジュニアオーケストラは小学4年から高校3年までのおよそ100人が在籍しており、今年で創設53年目の楽団です。オーディションを受けて入団が決まりますが、僕は中学時代に経験したパーカッションで受け、現在も担

当しています。団員の仲間は音楽に詳しい人ばかりで、楽器の音色や音楽の表現方法など、常に刺激を受けながら活動しています。入団して間もなく海外公演の話が聞こえてきました。僕が在団する期間にはない話だと思っていたので、正式に海外公演に参加するかと問われた時に、遠い海外へ行って上手く演奏ができるのか、その滞在中に仲間と上手く過ごせるのか不安になり悩みましたが、参加することを決意し、公演に向けて練習に励みました。

いざ音楽の都・ウィーンへ

海外 公演は、ニューイヤーコンサートで有名な「ウィーン学友協会」とウィーン少年合唱団コンサートホール「M u T h（ムート）」の2会場で、各公演90分間ほど、「エルガー作曲の威風堂々」「ラデッキー行進曲」「八木節」などを演奏しました。一番印象に残っているのは、ウィーン学友協会演奏した時の「音の響き」です。そこは一面に



マリンバを練習する健登さん。
時差ボケがあり大変だったようです。

輝く黄金色のホールなのですが、演奏する音までもキラキラと輝くような音の響きで、とても感動しました。



黄金のホールがある
ウィーン学友協会の外観

これからやりたいこと

実は 今、楽団仲間のつながりでバンドも組んで、キーボードを担当しています。ピアノやオーケストラでクラシックを演奏することももちろん楽しいのですが、バンドでポップミュージックを演奏することもとても楽しいので、もう少し力を入れてやっていきたいです。また、ピアノのレッスンでは作曲にも取り組んでいて、作曲もとても面白く興味があり、やりたいことはたくさんあります。

話がそれますがと教えてくれたことがもう1つ。小学生の頃にやっていたサッカーなど、スポーツにもまた取り組みたいという健登さん。これからも充実した日々を輝き続けることでしょう。

(4月10日取材)